

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
高2	国語	論理国語	探求 論理国語 (桐原書店)	下記参照

1. 授業のねらい

- ・授業における言語活動を通して様々な見方・考え方を身につけ、言語を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養う。
- ・大学に通じる言語能力の知識や技能を養うとともに、実社会に必要な国語の能力を育む。
- ・論理的な文章の内容を理解し、理解したことを自分なりに考え、自己の世界や思考を拡張する。

2. 授業のすすめ方

- ・単元に応じて、予習(漢字練習・意味調べ等)をしておくことを前提とする。
- ・授業を進めるにあたり、教科書・ノート・資料集を準備しておくこと。
- ・理解を深めるために電子黒板やタブレットを利用し、主体的・能動的な学びができる機会を設ける。
- ・ノートやプリントだけでなく、タブレットを使用してのコメントや解答の提出も求める。
- ・問題演習に定期的に取り組む。初見の文章を自らの力でまとめていくことを当然のこととする。

3. 学習上の留意点

- ・多くの文章に触れる機会を設けたいので、予習可能なものは事前に熟読することが望ましい。
- ・授業に能動的に関わってもらうため発言やコメントを求める。そのための道具としてタブレットを持参しておく。

4. 副教材

『大学入試に出た 核心漢字 2500+語彙1000』(尚文出版)

語彙を増やすとともに漢字の知識を身に付けるために活用しつつ、小テストのテキストとしても使用する。3年間継続使用する。

『新国語総合ガイド 五訂版』(京都書房)

文章を読む際に必要な知識や文学史などを体系的に理解するために使用する。3年間継続使用する。

『プロGRESS 現代文 総演習 発展編』(いづな書店)

1800字ほどの論理的な文章や文学的文章に取り組むことで、読解力・表現力・記述力・語彙力といった現代文の基礎学力を養う。また、書く力を養うために、百文字の要約をおこなう。

『速読+要約 ダブルワークス』(尚文出版)

1000字ほどの文章に2分から5分で取り組み、それを定められた時間で読解し要約する。様々な文章に触れ知見を広げるとともに、初見の文章を取り扱う力を養う。

5. 評価方法

- ・定期考査、小テスト、授業(タブレットを使った発表等)、提出物で判断する。
- ・定期考査は100点満点で年に5回行う。
- ・平常点は1学期・2学期20点、3学期10点とする。課題の提出状況、確認テスト、小テスト、授業(プレゼンテーション、発言等)を総合的に評価する。
- ・小テストでは漢字・語彙について出題する。※範囲及び実施日は後日配布する予定表を見てください。
- ・定期考査、平常点を基に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について学年末に評価する。

6. 定期考査

教科書の内容から出題するが、応用問題の出題も行う。※状況によって多少の変動がある場合があります。

1学期中間考査	評論	、	応用問題
1学期期末考査	評論	、	応用問題
2学期中間考査	評論	、	応用問題
2学期期末考査	評論	、	応用問題
3学期期末考査	評論	、	応用問題

指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	四月	<p>評論Ⅰ</p> <p>○つながりの中へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、必要に応じて要約する。 接続表現や指示表現などを丁寧に追い、論の展開を分析しながら、評論文の基本を学習する。 筆者の主張を踏まえて、自身で意見をまとめた文章を書く。 目的や相手に合った分かりやすい説明について考える。 	<p>小テスト</p> <p>定期テスト</p> <p>問題集</p> <p>ロイロノートによる提出物</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開を確かめながら、筆者の主張を読み取る。 接続表現や指示表現による文章構成などから筆者の主張をおさえ、その内容を主体的に考察する。 分かりやすい説明や表現について考察する。 理解・表現する上で必要な語彙力を養う。
	五月	<p>評論Ⅱ</p> <p>○言葉の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> 語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し語彙を理解する。 長めの文章であっても、主題を的確に把握できるように読解する。 筋道を立てて物事を考察し、論述することの意義と大切さを理解する。 		
	六月			
二学期	九月	<p>評論Ⅲ</p> <p>○環境に寄り添う営み</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張を的確に読み取り、必要に応じて要約する。 筆者のものの見方や感じ方、表現の特色に注意して読解する。 他の文化などに対して、言語を用いてどのように接していくのかということを理解する。 	<p>夏季課題</p> <p>小テスト</p> <p>定期テスト</p> <p>問題集</p> <p>ロイロノートによる提出物</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者独自の考え方や見方を通して、さまざまな事柄に問題意識を持ち、ものの見方を養い、自らで考える力を養う。 文章や図表などに含まれる情報を関係付けながら、筆者の意図を解釈し、主張を読み取る。 理解・表現する上で必要な語彙力を高め、表現効果や資料の活用について考察する。
	十月	<p>評論Ⅳ</p> <p>○テクノロジーの開く世界</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的にイメージできる事柄が、どのような言説を引き起こし得るのかを考察する。 具体例や引用の意味を押さえながら、論旨を正確に読み取る。 		
	十一月			
三学期	十二月			
	一月	<p>評論Ⅴ</p> <p>○共同体から市民社会へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者のものの見方、主張の展開の仕方を学び、表現も考える。 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や筆者の意図を解釈し、文章の構成や論理の展開について考える。 筆者の主張を読み解き、自身で意見をまとめた文章を書いたり、意見交換をしたりする。 	<p>冬季課題</p> <p>小テスト</p> <p>定期テスト</p> <p>問題集</p> <p>ロイロノートによる提出物</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開を意識しながら、論理的な文章を書く方法を学び、そこで扱われている問題に関する考察を深める。 分かりやすい説明や表現を工夫したり、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫したりする。
	二月			
三月				

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。